

設定理由：主体的に学ぶ学習方法として、本校が取り入れているポートフォリオを使ったプロジェクト学習についての説明を行い、意志ある学びを実現するための科目として設定した。

科目目標：ポートフォリオを活用したプロジェクト学習の手法を身につける。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. プロジェクト学習	1. プロジェクト学習を理解する	1. プロジェクト学習とは 2. ポートフォリオとは 3. プロジェクト学習で身に付く力	4	講義
2. ビジョンとゴール	1. ビジョンとゴール	1. ビジョンとゴール 2. 計画立案 3. 情報リサーチ 4. 制作 自己学習：計画立案に必要な準備と情報リサーチ	4	講義 演習
3. プレゼンテーション	1. プレゼンテーションの意味・方法を理解する	1. プレゼンテーションとは	2	講義 演習
4. リフレクション	1. リフレクションとは何かを理解する	1. リフレクションとは	2	
5. 再構築	1. 再構築について理解する	1. 再構築とは	2	
6. 成長エントリー	成長エントリー	1. 成長エントリーとは 自己学習：再構築、成長エントリーに必要な自己評価		
7. 評価			1	
評価方法	評価方法は担当講師に一任する。			
テキスト	講師資料			

科目：看護実践の基礎Ⅱ

1単位（30時間）

設定理由：看護学を学ぶ上での導入部であり、看護の主要概念を捉え総合保健医療の中での看護の位置を明確にし各看護学に応用していける基礎的知識態度を養うための科目として設定した。

科目目標：看護の基本となる概念について理解する

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 人間	1. 看護の対象である人間を理解する	1. 人間とは 2. 成長・発達 3. 人間と欲求 4. セクシュアリティ	4	講義
2. 環境	1. 環境について理解する	1. 環境とは 2. 人間と環境	4	講義
3. 健康	1. 健康について理解する 2. 健康と生活のかかわりについて理解する	1. 健康とは 2. 健康に影響を与えるもの 3. 健康な生活	4	講義 演習 GW
4. 看護	1. 看護の定義を基盤に看護の本質を理解する。	1. 看護とは 2. 看護の歴史と発展 3. 看護理論 4. 看護の変遷 5. 看護教育	8	講義 GW
5. 看護の機能と役割	1. 看護の機能や役割を理解する	1. 看護ケアにおける看護師の役割と責任 2. 看護ケアの教育的側面における看護師の役割 3. 看護実践における研究の役割	3	講義 演習
6. 看護倫理	1. 看護を取り巻く倫理について理解する。	1. 看護における倫理の必要性 2. 看護倫理とは 3. 道徳的ジレンマと倫理的課題 4. 倫理的課題への対応 1) 事例検討	6	
7. 評価			1	
方 評 法 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	川村 佐和子：ナースング・グラフィカ⑩ 看護学概論（メディカ出版） 日本看護協会：看護者の基本的責務（日本看護協会出版会） V. ・ヘンダーソン：看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） F. ・ナイティンゲール：看護覚え書き（日本看護協会出版会）			

科目：コミュニケーション論

1 単位（15 時間）

設定理由：学生はコミュニケーションに関する体験の少なさから、対象者と良い人間関係をとることを不得意にしている。看護援助はコミュニケーションを通してなされ、医療者同士のコミュニケーションも重要である。看護師が患者と向き合い、寄り添って援助を実施するための能力を身に付けるため科目として設定した。

科目目標：看護の対象及び家族との信頼関係を築き、看護援助に必要な関係を成立させるための方法を身につける。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 多様な年代や立場の人との援助的人間関係の形成	1. コミュニケーションの意義と種類を理解する。	1. コミュニケーションとは 2. カウンセリング技術	2	講義 VTR 視聴 ロールプレイング グループワーク
	2. コミュニケーションの方法を理解する。	1. コミュニケーションの技術 1) コミュニケーショントレーニング	2	
	3. 医療者に求められる援助的コミュニケーション方法を理解する。	1. 看護場面におけるコミュニケーション 2. 医療におけるケアリング 1) ケアリングとは 2) アサーションとは 3. コミュニケーションのプロセスに影響する因子 4. 理解的態度のとり方 1) 傾聴、相槌、繰り返し 2) 感情の明確化	4	
	4. 看護場面に応じた基礎的なコミュニケーション技術を習得する。	1. 看護における人間関係成立 1) 臨床の場における看護者のあり方 2) 情報収集の仕方 3) 良い患者－看護者関係を築きながら有効な質問の仕方 2. 患者の立場に立つとは	4	
	5. 効果的なコミュニケーション方法を理解する。	1. ユーモアと笑い	2	
2. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	有田 清子：系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）			

科目：基礎看護技術論Ⅰ（看護技術の基礎となるもの）

1単位（30時間）

設定理由：看護専門職者として必要な基本技術の概念と基本構造を理解する。看護技術特殊性とフィジカルアセスメントの技術を学び、対象の身体的変化についてのアセスメントの方法、身体診査の技術の意味を学習する科目として設定した。看護実践の基盤である観察技術や基本技術、コミュニケーション技術を用いて対象の健康状態を把握し、アセスメント結果から正常及び正常からの逸脱を判断できる知識、技術について理解する科目として設定した。

科目目標：看護技術の特殊性と看護における観察の目的を理解し、健康レベルの看護アセスメントに必要な知識・技術・態度を身につける。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 看護技術とは	1. 看護技術の特殊性を学び、看護技術の展開のプロセスを理解する。	1. 看護技術とは何か 2. 看護技術の特殊性 3. 看護技術の範囲 4. 看護技術を実践するための要素 ・ヘルスアセスメント ・クリティカルシンキング 5. 看護技術の発展と習得のために	12	講義
2. 健康レベルの看護アセスメント	2. 看護における観察の目的を理解し、看護実践のための知識及び技術を身につける。	1. スタンダードプリコーション ・衛生学的手洗い 2. ヘルスアセスメントとは 3. ヘルスアセスメントの実際 1) 全体を概観する 健康暦の聴取・インタビュー バイタルサインの観察とアセスメント 2) フィジカルアセスメント 基本技術（視診・触診・打診・聴診） 4. 心理、社会状態のアセスメント ☆課題演習（15時間） *シミュレーション（健康な成人） 教材：フィジコ ①バイタルサインズ ②皮膚・爪、頭・頸部・神経系、眼・耳・鼻・口、呼吸器系、心臓・血管系、乳房・リンパ、腹部、筋・骨格系のアセスメント ③衛生学的手洗い	17	講義 DVD 演習
3. 評価			1	
方 法	試験で評価する（フィジカルアセスメントは実技試験を行う） 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	有田 清子：系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 横山 美樹：はじめてのフィジカルアセスメント（メジカルフレンド社）			

設定理由：日常生活を支えるために、活動と休息、生活環境、身体の清潔についての理解を深め、対象の日常生活行動を把握した看護技術が必要である。そこで日常生活を支える技術１では、活動と休息、環境および健康生活を維持するために重要な清潔を保つ看護技術を学び各看護学に応用できる能力を身につけるための科目として設定した。

科目目標：日常生活を支える活動、休息、睡眠および環境整備、身体の清潔援助に必要な知識・技術・態度を身につける。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 活動と休息を支える技術	1. 活動と休息の意義及び重要性について理解し、健康生活における活動・睡眠に必要な知識・技術を身につける。	1. 活動と休息の意義 2. 健康生活と活動・睡眠 3. 廃用症候群 4. ボディメカニクス ☆演習 *シミュレーション (長期臥床による筋力低下のある患者) 体位変換 (ボディメカニクス)、車椅子移動	2 4	講義 演習
2. 環境を整える技術	1. 健康生活の維持・疾病の回復・予防のための生活環境の果たす役割について理解し、生活環境調整に必要な知識・技術を身につける。	1. 健康生活における環境の意義 2. 病人の生活環境とその整備 3. 病床整備 ☆演習 *シミュレーション (臥床安静が必要な患者) 病床整備、臥床患者のリネン交換	5	講義 演習
3. 清潔を保つ技術	1. 健康生活における身体清潔・衣服の意義について理解し、清潔援助に必要な知識・技術を身につける。	1. 健康生活における清潔の意義 2. 清潔の援助に必要な知識 3. 清潔援助の実際 4. 健康生活における衣服の意義 5. 衣生活への援助 ☆演習 *シミュレーション (臥床安静が必要な患者) 全身清拭、寝衣交換、足浴、洗髪	18	
4. 評価			1	
評価方法	試験で評価する（看護技術は実技試験を行う） 方法は担当講師に一任する			
テキスト	紙屋 克子：ナースングバイオメカニズムに基づく自立のための生活援助技術 (ナースングサイエンスアカデミー) 藤崎 郁：系看護専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)			

設定理由：人間にとって食事と排泄は基本的欲求でありその人の生活習慣に深くかかわっているため対象の日常生活行動を把握した看護技術が必要である。そこで日常生活を支える技術２では、食事の援助および排泄の援助に必要な看護技術を学び各看護学に応用できる能力を身につけるための科目として設定した。

科目目標：日常生活を支える食事、排泄援助に必要な知識・技術・態度を身につける。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 「食べる」を支える技術	1. 食生活の意義について理解し、食事の援助に必要な知識・技術を身につける。	1. 健康生活における食事の意義 2. 食事の援助 ☆演習 *シミュレーション （臥床安静が必要な患者） ・手浴 ・口腔ケア ・食事介助	4 8	講義 演習
2. 「トイレに行く」を支える技術	2. 人間生活における排泄行動の意義について理解し、排泄の援助に必要な知識・技術を身につける。	1. 健康生活における排泄の意義 2. 排泄の援助 3. 浣腸について 1) 浣腸の目的と種類 2) 浣腸施行上の原則と留意点・方法 4. 導尿について 1) 導尿の目的・施行上の原則・方法 2) 膀胱留置カテーテル使用患者の看護 ☆演習 *シミュレーション （臥床安静が必要な患者） 床上排泄の援助 ・陰部洗浄・オムツ交換 ・便器、尿器の扱い ・浣腸・導尿	4 13 1	講義 演習
2. 評価				
方 法 評 価	試験で評価する 評価方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	川村 佐和子：ナーシング・グラフィカ® 看護学概論（メディカ出版） 藤崎 郁：系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）			

科目：基礎看護技術論Ⅳ（看護理論と看護の展開・教育）

1 単位（30 時間）

設定理由：対象の看護問題を判断するための問題解決のプロセスと健康を支えることを学ぶことで、各看護学の展開に応用、発展できる基礎的能力を養うと共に健康な生活を目指す指導技術を学ぶ科目として設定した。

科目目標：科学的な看護実践の基礎となる看護過程の展開方法および教育、指導の方法を身につける。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 看護理論と看護の展開	1. 看護理論と看護過程の展開方法について理解する。	1. 看護理論 1) 看護理論とは ・ヘンダーソン ・ロイ ・オレム 2) 看護モデルとは 2. 看護過程とは 3. 看護過程の基盤となる考え方 4. 看護過程の各段階 5. 看護記録 6. サマリー 演習 *シミュレーション (呼吸障害のある患者および脳機能障害のある患者)	20	講義 演習
2. 教育・指導	健康を支える教育・指導について理解する	1. 看護における教育・指導とは 2. 健康に生きることを支える教育・指導 3. 健康状態の変化に伴う教育・指導 4. 個人を対象とした教育・指導 5. 家族を対象とした教育・指導 6. 集団を対象とした教育・指導	9	講義
3. 評価			1	
方 法 評 価	試験で評価する。 評価方法は担当講師に一任する。			
ス テ キ	有田 清子：系看護専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ （医学書院） V.ヘンダーソン：看護の基本となるもの（日本看護協会出版社） 秋葉 公子：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 （ヌーヴェルヒロカワ）			

科目：基礎看護技術論Ⅴ（健康課題を持つ人への看護）

1単位（30時間）

設定理由：健康障害を持ち、各健康のレベルにある対象の特徴を理解し、専門分野Ⅱの看護の展開に応用できる基礎的な能力を養うための科目として設定した。

科目目標：特定の健康課題を持つ看護の対象を理解し、アセスメントと援助の方法を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	教授方法
1.健康課題を持つ人への看護	1. 各健康レベルとその対象の特徴および看護について理解できる。	1. 健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援 1) 個人の特性に対応した健康環境づくり 2) 健康支援の方法 3) 健康診断に関わる支援 4) 感染予防の活動	4	講義 V T R
		2. 慢性的疾病を持つ人への療養生活支援 1) 疾病・健康問題に応じた生活支援 2) 医学的管理と受診への支援 3) 労働に関わる支援 4) 家族への支援 5) 療養生活に関わる資源の活用支援	6	講義 V T R ロールプレイ GW
		3. 治療過程・回復過程にある人への援助 1) 受けている治療法の影響による判断と予測 2) 治療法に基づく個別援助 3) 安全・安楽を充たす援助 4) リハビリテーションへの援助 5) 家族への支援	10	講義 V T R GW
		4. 健康の危機的状況にある人への援助 1) 生命の危機状態の判断と救命処置 2) 心の危機的状態の判断と緊急対応 3) 事故の特性に応じた救急処置・援助 4) 本人への的確な状況説明 5) 家族への支援	4	講義 V T R
2. 評価		5. 終末期にある人への援助 1) 身体的苦痛の除去 2) 死に逝く人の苦悩の緩和 3) 基本的欲求の充足 4) 死に逝く人の自己実現への援助 5) 看取りをする家族への支援 6) 遺族への支援	5	講義 V T R
評価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ステキ	香春 知永：系看専門Ⅰ 臨床看護総論（医学書院）			

科目：基礎看護技術論Ⅵ（比較的軽度な身体侵襲を伴う技術）

1 単位（30 時間）

設定理由：患者が安全・安楽に診療が受けられるよう診療の目的を理解し、診療に伴う患者の心理や苦痛を学び、診療に関連した援助技術を身につけるための科目として設定した。

科目目標：比較的軽度な身体侵襲を伴う技術に必要な知識・技術を身につける。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 呼吸・循環を整える技術	1. 吸入・吸引の目的、原理・原則を理解し、安全かつ効果的な援助ができるための知識・技術を身につける。	1. 酸素療法の目的と適応・種類 2. 蒸気吸入および薬液噴霧 3. 体位ドレナージ 4. 吸引の目的と適応・種類 5. 吸引の原理と装置 6. 吸引法 7. 胸腔ドレナージ 8. 電法 ☆演習 *シミュレーション（呼吸困難のある患者） 酸素吸入、口・鼻腔内・気管内吸引、安全な呼吸法、体位排痰法	10	講義 演習
2. 症状・生体機能管理技術	1. 症状・生体機能を管理するために必要な知識・技術を身につける	1. 検査の意義および看護職の役割 検査実施時の介助方法および検体採取方法（採尿） 2. 静脈採血 3. 検査の介助に関する基礎知識 4. 目的・検体や器具の取り扱い 5. 尿検査・便検査・喀痰検査・血液検査 6. 検査の介助 X線撮影 CT MRI ☆演習 *シミュレーション（検査目的の患者） 静脈血採血	10	講義 演習 DVD
3. 感染予防の技術	1. 感染予防に必要な知識・技術を身につける。 2. 創傷を管理に必要な知識・技術を身につける。	1. 感染予防の意義 2. 主な感染症とその伝播経路 1. 創傷保護の方法（包帯法） ☆演習 *シミュレーション（感染症の患者） スタンダードプリコーション ガウンテクニック 無菌操作 包帯法	11	講義 演習
4. 評価			1	
方 法 評 価	試験で評価する（看護技術は実技試験を行う） 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	藤崎 郁：系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）			

科目：基礎看護技術論Ⅶ（高度な身体侵襲を伴う技術）

1 単位（30 時間）

設定理由：看護の活動の目的を理解し場が施設から地域へ拡大され、看護職者に求められるものも多様化してきている。本校は民間病院を母体とし、地域医療の担い手の育成を目指している。医療の進歩や世の中の変化にあわせ、看護独自の視点から救急医療や高度医療に少しでも貢献でき、対象の個別性に合った援助を実践できる知識・技術を身につけるための科目として設定した。

科目目標：ME機器の使用方法を理解し、看護の援助方法を理解する。

与薬および救急法について理解し、看護に必要な知識と技術を身に付ける。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
-----	---------	---------	----	----

1. ME機器の構造と機能	1. ME機器の構造と機能を理解しその取扱いの方法を知る。	1. ME機器とは 2. ME機器の基礎知識(構造・機能) 3. ME機器の使用法および安全管理 人工呼吸器、心電図計、除細動器 輸液ポンプ・シリンジポンプ	8	講義
2. 与薬の技術	1. 安全かつ適切な与薬ができるために必要な知識・技術を身につける。	1. 与薬に際しての看護師の責任 2. 与薬上の原則と注意事項 3. 与薬の方法 4. 与薬時の看護 1)経口薬 2)注射法 3)中心静脈内注射 4)輸液ポンプ 5)輸血 6)抗生物質 7)インシュリン製剤 8)麻薬 ☆演習 *シミュレーション (輸液ポンプ使用患者) ルート確保および輸液の管理	12	講義 DVD 演習
3. 救命救急処置技術	1. 救急看護の意義を理解し、看護の役割を果たすために必要な知識・技術を身につける。	1. 救急医療とは 1)救急医療とは 2)救急医療法の目的 2. 救急医療における看護師の役割と活動 1)救急看護の特徴 2)救急患者と家族の特徴 3. 救急患者への対応 1)一次救命処置 2)二次救命処置 3)救急処置 ☆演習 *シミュレーション (心肺停止患者) 蘇生：CPR (心肺蘇生) AED (自動対外式除細動器)	9	講義 DVD 演習
4. 評価		1. 評価	1	
方 評 価	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
ス テ キ	藤崎 郁：系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 山勢 博彰：救急看護論 (ヌーヴェルヒロカワ) 香春 知永：系看専門Ⅰ 臨床看護総論 (医学書院) 任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)			

科目：看護研究

1 単位（30 時間）

設定理由：看護学の専門性や独自性を追求するために看護実践活動における看護研究の必要性和研究方法、研究的態度を養うための科目として設定した。

科目目標：1. 看護実践における研究の意義・目的、一般的な進め方が理解できる。

2. ケーススタディの意義・方法が理解できる。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 看護研究	1. 看護における研究の意義を理解し、看護研究の必要性が理解できる。 2. 看護研究のプロセスが理解できる	1. 看護における研究 1) 研究とは 2) 看護研究の意義・目的 3) 研究で使用する専門用語 2. 看護研究の方法とデータの収集法 1) 看護研究の方法 2) データの収集 3. 看護研究の進め方 1) 看護研究の目的の明確化 2) 看護研究の対象と方法の選定 3) 看護研究のための資料の収集 4) 看護研究の結果と整理・分析 5) 看護研究における考察と発表	4 4 10	講義 講義 講義 演習
2. 研究における倫理	1. 看護研究における倫理的配慮について理解できる	1. 看護研究の対象となる人々の権利擁護	2	講義
3. ケーススタディ	1. ケーススタディの意義や方法が理解できる	1. ケーススタディの意義 2. ケーススタディのまとめ方	9	講義 演習
4. 評価			1	
評価方法	評価方法は担当講師に一任する			
テキスト	坂下 玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究			